

# 活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	森に親しむ懇談会(もりこん) 1 4 5		
タイトル	「波乱万丈！日本の絹の物語」～絶滅の危機/養蚕と製糸業		
実施日時	平成29年6月15日(木) 18:45～20:45		
実施場所	船橋中央公民館第2集会室		
受講者	9名	FIC会員	9名

## 活動の内容

講師は千葉県森林インストラクター会の草木染研究家、井形さん。  
最初に「皇后陛下のご養蚕」の様子をDVDで紹介。繭作りの道具である藁蔭(わらまぶし)をご自身で編まれるなど、伝統的な養蚕を大切にされていることが感じられた。

次に天然繊維、化学繊維、無機繊維など糸の種類、絹が素材の優秀さから繊維の女王と言われる所以、中国では5000年前に養蚕と製糸が広まっており、2000年前には機織り、染色技術などが確立されていたこと、日本では3世紀にそれらの技術が伝来し、江戸時代に養蚕が奨励され、そして明治末期には生糸の生産量が世界一位になったこと、女工哀史の実態、また化学繊維に押されて衰退していく過程などの説明があった。

続いてクワコを改良して作られた「家畜昆虫」である蚕の生態、製糸・養蚕など用語の説明、機織り機械の進歩はパンチカードによる自動織に繋がり、この技術がコンピューターの開発にも役立ったことなどを伺った。富岡製糸場と横浜開港のつながりでは、その役割・使命・立地条件・運営、そして世界遺産に至るエピソードを興味深く聞いた。

現在の養蚕は惨憺たる状況で、最盛期の昭和初期には200万戸を超えた養蚕農家は2015年には368戸と絶滅寸前。講師によれば日本の養蚕の最後の砦は「皇后陛下のご養蚕」であるとのこと。

絹の新しい使い道として、100%蛋白質の絹は人体への生体親和性が高く拒否反応がないため、酸素透過性・柔軟性・強靱性などの特徴を生かし医療用途への可能性が大きく、まさに「衣料」から「医療」への展開が期待される。

また、講師の豊富な知識と共に実際に生糸や染色後の絹糸、染色の実物などたくさんのサンプルを持参いただき理解をより深めることができた。



興味深く講師の説明に聞き入る



絹糸を始め豊富な資料



皇后陛下のご養蚕から



普通の繭と玉繭